

# 南日本新聞

日	月	火	水	木	金	土
27	28	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

3月27日(日)

旧暦2月23日 赤口

発行所：(郵便番号890-8603)

鹿児島市与次郎1丁目9番33号

南日本新聞社

電話 099-813局

社会部 5124 政経部 5116

文化部 5136 運動部 5151

地域報道・ウェブ 写真部 5155

運報部 5144 論説委 5101

広告営業本部 5063

販売推進本部 5040

事業本部 5052

経営企画局 5030

フォトサービス 5003

総合受付 5001

なんにち求人 223-9555

読者室 099(813)5110

## 一九六〇年代 未来へ続く思想

1960年代の日本の高度経済成長の陰で、多くの命が失われ、あるいは危機にさらされた。水俣病の被害拡大や甚大な炭鉱事故がその例であり、世界的にも、核戦争寸前のキューバ危機(62年)や、枯れ葉剤散布で多くの健康被害を招くベトナム戦争(65年)が起る。公害や戦争という文明社会の矛盾に社会に属する個人はどう向き合ったのか。問われたのは、危機に瀕する命の尊厳をどう守るかだった。

経済学部で開講された「現代社会史」の講義録。登場するのは、「ベトナムに平和を!市民連合」事務局長の吉川勇一、水俣病や三池炭鉱事故で一貫して患者と被害者に寄り添う医師原田正純、脱つま町出身、環境哲学者の最首悟、脱原子力発電を掲げるNPO法人「原子力資料情報室」の共同代表山口幸夫の4人。市民運動や反戦運動、患者の掘り起こしを通じ、命のあり方を問い続けた信念や葛藤、行動の舞台裏が余すところなく語られている。昭和史を検



高草木 光一編

(岩波書店・2625円)

## 命のあり方問う証言集

証する上での貴重な証言集でもある。編者の高草木光一・慶応義塾大学教授は、60年代を「主体的な個人が確立されていった」と分析。例えば水俣病をめぐるのは、当時、原田以外にも作家の石牟礼道子、写真家の桑原史成、東大大学院生で後に環境学者となる宇井純など多くの若者が、問題の重大さを世に問い続けていた。原田は語る。「当時はお互いを知らなかったが、大切な事件という直感を共有していた。立場の違う人たちが関心を持ち、その時代

を切り取ってきたのが大事だ」 彼らは政党や大きな組織の後ろ盾を持たない。「主体的」に考えて起こした個人の行動が同じ方向を向き、結果的に大きなうねりを生み出した。4人は講義を通じ、未来を担う若い世代に「遺言」を残す意味合いもあった。 「自分たちが動けば世の中が変わるかもしれないと思った」という吉川の言葉が、「主体的とは何か」という問いを突きつける。

(社会部・山崎省吾)

# 週刊 読書人

## 新刊

高草木光一編

一九六〇年代

未来へつづく思想



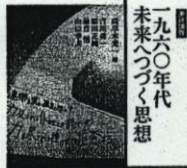
日米相互協力及び安全保障条約(新安保条約)調印にはじまった、日本の一九六〇年代。核兵器による戦争の恐怖、水俣病など環境

汚染による公害、ベトナム戦争、キューバ危機、パレスチナ解放機構の設立、第三次中東戦争、全共闘運動……様々な出来事が起こり、歴史の転換点とも考えられる六〇年代。この激動の時代に、節目となる事件や運動の主役であった四人を招いて行なわれた連続講義の記録。吉川勇一(平和運動家)、原田正純(水俣病問題に取り組む医師)、最首席(環境哲学者)、山口幸夫(市民科学者)が語る、原水爆禁止運動、東大闘争、三里塚闘争の話。(A5判・304頁・2625円・岩波書店)

# 書物の森

## この一冊

高草木光一著  
『一九六〇年代  
未来へつづく思想』



一九六〇年代  
未来へつづく思想

環境問題でも障害者問題でも、歴史を遡ると必ず行き当たるのが、1960年代。日本では「飢え」が一段落し、今度は科学技術と生産至上主義の興隆が、「いのち」を地球大で脅かし始めた。すると、科学が哲学されなければならない。

「ベ平連」の吉川勇一、水俣病を追及した原田正純、東大闘争の最首悟、三里塚などで働いた山口幸夫が登場するが、彼らの思考の後背には、故小田実や高木仁三郎らの姿が見える。全共闘世代は、その後大勢に順応したわけだが、落とし前をつけた人もいる。大学を

辞し、「市民科学者」として脱原発を貫いた高木に較べれば、いまテレビで解説している核科学者たちは、

半減期2万4000年のプルトニウムの上に建つ文明を否定し切れていない疑いがある。60年代以来の思考が、実はこれからの未来を照らすというこの本は、いま、実に説得的。岩波書店・2625円。(月)



絵・中島 中



